



出水高校だより

第一号 令和三年四月二十一日

新年度に当たって

校長 宮原義文

令和三年度がスタートして、あつという間に四月も終わりに差し掛かりました。一年生も徐々に高校生活に慣れつつあるようです。ご家庭でのお子様の様

子はいかががでしょうか。もしご心配なことがあったら、遠慮なく担任にご相談ください。

さて、私は先週から、着任のあいさつを兼ねて、出水市や阿久根市、長島町の中学校や教育機関を訪問しています。時には思いがけなく高校時代の同窓や、先輩・後輩に出会い、旧交を温めることがあります。多くの方が口にするのは、出水高校に対する期待です。「中学生が『出水高校に行きたい』と思うような学校にしてください」「在校生の目標や夢が実現する

令和3年度の入学式



ような指導をしてください。様々な方からそのような叱咤激励をたくさんいただきました。

校長として、まさに身の引き締まる思いがいたしました。

考える力と伝える力

四月十六日(金)、本校体育館にて、「想造『三年生課題研究発表会』が開催され、九つの研究発表が行われました。

発表は、一人(一グループ)当たり六分間。感染予防対策に十分配慮した上で、すべての生徒が参加しました。

文系クラスの生徒は「結婚に対する価値観の変化」「公務員のあるべき姿」「油津商店街の成功例は元町商

す。生徒の皆さんが「出水高校に入学してよかった」と思ってくれるような学校づくりを目指し、全職員が力を合わせ、様々な取組を行っていく決意です。

保護者の皆様には、引き続き出水高校の教育活動にご協力くださるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

店街でも応用できるか」「源氏物語の光源氏が最も愛していたのは本当に紫の上なのか？」など、社会的、文学的な研究発表を行いました。一方、理系クラスの生徒は、「野菜の保存方法による鮮度」「観天望気による気象観測」「現代野球、上から打つのが良いか、下から打つのが良いか?」「AIと感情に関する研究」「健康的な食事に関する研究」とい

った、生活科学、地球科学、スポーツ科学、情報科学、健康科学的な視点からの研究発表を行いました。どの発表も研究の目標と研究の方法が明確に示されており、仮説の設定やその検証に加え、今後の研究課題までがきちんと明示されていました。

今回の課題研究発表を聴き、「想造」の学びが、出水高校の新たな伝統の出発点となる予感がしました。

どの研究発表も高いレベル

